

留意事項

上記住民移転数は、橋梁架橋地点近傍のみを対象としており、AATR、DNRがローンにより行う道路建設を対象としたものでない。また、数値は最小でも上記程度必要として算出したものであり、数値は増える可能性をもつ。住民移転は家屋を新たに建設して行う必要があり日数を要する。基本設計調査終了時以降、着工までに「セ」国、「マ」国は迅速に住民移転手続きをとらなければならない。

写真 8.9 ファレメ川橋 (9)



「セ」国側入出国管理チェックポイント

写真 8.10 ファレメ川橋 (10)



「セ」国側入出国管理事務所 (警官詰所)

8-3 コンベラ (KOMBERA) 第2橋

コンベラ第2橋架橋位置にて確認できた川幅は約20m程度であり、調査時には全く水量がなかった(写真8.11, 写真8.12)。BID F/Sがここに156.02mの橋長を計画しているのは、道路がなだらかな谷を曲線かつ斜めに越えているためであり、河川条件から与えられるものではない。道路線形の見直しが図られれば、半分以下の橋長で十分である。

写真 8.11 コンベラ第2橋 (1)



河川のような窪みは20~30m程度の幅を持つ

写真 8.12 コンベラ第2橋 (2)



水が走ったあとが残っている

8-4 ウルンカリ (OULOUNKALI) 川橋

調査時に確認できたウルンカリ川は川幅 20 m の小規模河川であり、現況の河川に関する自然状況観測結果からは、155m を越える橋長の必要性を発見することはできなかった (写真 8.13, 写真 8.14, 写真 8.15)。

「マ」国にウルンカリ川に関する水理・水文データがなく、また、地元集落住民からも言語の問題から、ヒアリングを行うことはできなかった。

水源はギニアとの国境付近にあり、流域面積から判断すると、その計画流量は 300 m³/sec 程度であろう。

河床は硬岩から構成されており、ハンマーの石錘でたたいても、打点痕を残すのがやっつである。

写真 8.13 ウルンカリ川 (1)



現道交差部の様子

写真 8.14 ウルンカリ川 (2)



現道交差部から上流を望む

写真 8.15 ウルンカリ川 (3)



現道交差部から下流を望む

写真 8.16 ウルンカリ川 (4)



河床は非常に硬い硬岩である

8-5 バフィン (BAFING) 川橋

計画対象地は比較的なだらかな丘陵地であり、流れも緩やかである。川幅は約 200m であり、要請書にあった橋長 247m は比較的妥当な数字である。河川は緩やかな蛇行を示し、その形状はほぼ安定している (写真 8.17, 写真 8.18)。

水量は一年を通じて多く、乾季でも船以外渡河する術がない。地元住民は小船を使って人力で対岸まで往来しているが、雨季の増水時または風が強い時期、時間帯には、その小船では行

き来できない(写真 8.19)。

河岸は、堆積したラテライト層がその中心である。河床は固い岩盤が露呈しており、その形状は比較的平坦であるものの所々岩が突出してる。

この河床に直接基礎である橋脚を計画する場合、強固な岩盤を掘削しなければいけないこと、締め切り工などの設置が非常に難しいことを考慮した特殊工法が必要となる。

写真 8.17 バフィン川 (1)



水量は豊富であり、河川幅は約 200m である

写真 8.18 バフィン川 (2)



道路中心を示す杭

写真 8.19 バフィン川 (3)



地元民が使用する小船

写真 8.20 バフィン川 (4)



周辺集落の様子、施工には問題ない

8-6 バレ (BALE) 川橋

乾季である調査時は、幅約 10m、水深 50cm 程度の浅瀬を四輪駆動車やトラック及び徒歩、自転車などが通行している(写真 8.22)。

水位などの水文・水理データはないが、地元住民の話によると、雨季には水位が約 10m 程度上昇し、かつ、その時期は半年間続くという(写真 8.25, 写真 8.26, 写真 8.27)。

川幅は 60m 程度であり、渓谷のような断面を有する(写真 8.21)。河川自体は大きく蛇行している。周辺状況の観測結果から大木などの流木等が発生していると判断する(写真 8.29)。このような河川では、河川内にできる限り橋脚を設けない、もしくは流木が十分に通過できるような適切な支間長を適用することが望ましい。

写真 8.21 バレ川 (1)



現道交差部より上流を望む

写真 8.22 バレ川 (2)



乾季は浅瀬を通過している

写真 8.23 バレ川 (3)



現道交差部より約 100m 下流

写真 8.24 バレ川 (4)



現道交差部より約 100m 下流

写真 8.25 バレ川 (5)



地元住民から洪水時の水位を確認する

写真 8.26 バレ川 (6)



同左

写真 8.27 バレ川 (7)



確認した水位は河床より 9～10m であった